

コネクテッド・プランニング・スターターキット： 統合ビジネスプランニングと実行

ベストプラクティスと最初のステップ

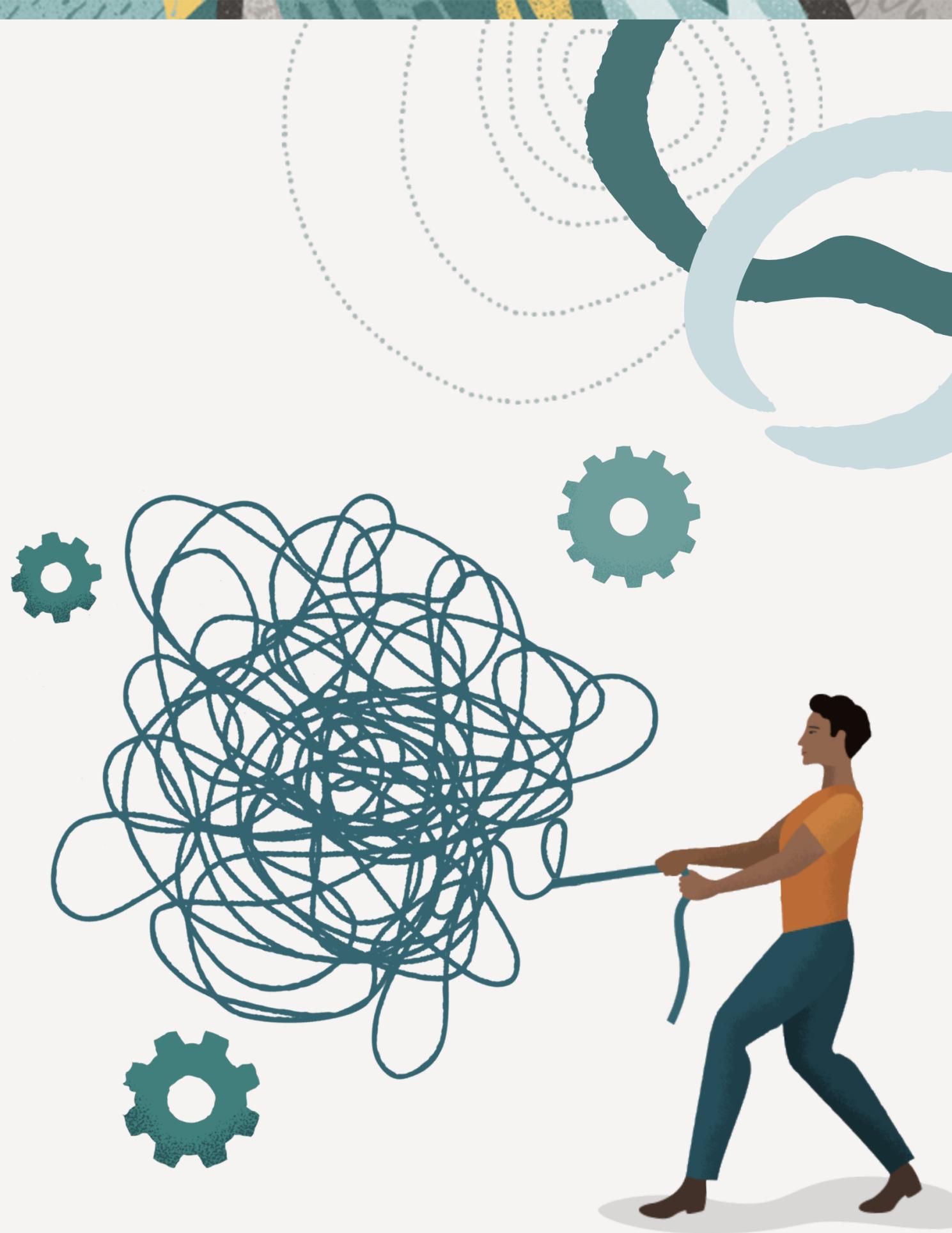


統合ビジネスプランニングと実行

サプライチェーンの混乱が加速する中、企業はコストとサービスへの影響を最小限に抑えるための方法を求めています。混乱の原因は、天候、新たなビジネスの機会、急激な需要の変化、機器や供給のパフォーマンスの問題など、内部・外部から生じます。混乱は常に複数の発生源から顕在化する可能性があり、財務およびサプライチェーンの専門家の両方が、迅速かつ正確な対応することが極めて重要です。

それと同時に、サプライチェーンの運用を支えるテクノロジーも急速に進歩しています。多くの企業ではこうした運用を、より頻繁な機能更新や、モノのインターネットや人工知能、機械学習などの新技術を提供するクラウドベースのソフトウェアへと移行しています。高度なアナリティクスは材料や財務の影響に対するインサイトを提供し、意思決定の調整に役立ちます。

混乱を見越した行動に励む企業にとっては、混乱の発生時にそれを理解し、迅速な対応に要する意思決定のサポートを得ることが不可欠です。統合ビジネスプランニングと実行により、S&OPのベストプラクティスとこれら新テクノロジーのカテゴリーの利点を活用し、より早く情報を得て、より早い対応が実現されます。



統合ビジネスプランニングと 実行のベストプラクティス

1 財務・運用プランニングのプロセスを 調整する

財務プランニングと業務計画の調整とは意識的な取り組みであり、十分な情報に基づく判断の前提条件です。Oracle Fusion Cloud EPM、SCM、ERPは、こうした理念で設計されています。計画の決定にはエンド・ツー・エンドでの計画の調整のために、材料、資源、財務、人員のインプットの同期が必要です。同時に集約型の計画では、計画の方針を実行レベルまで推進し、実行による混乱を計画に組み入れることが可能でなければなりません。計画のアジリティ、応答性、回復力は、計画調整のためのこうした主要な統合ビジネスプランニング機能に依存します。

2 プランニングの頻度を戦略的に増やす

計画段階でのミスが減らすことは、緊密で幅広く多岐にわたる性質を持った情報のことを考えると、難しい課題だと言えます。ある地域の傾向に基づいて論理的だと思われる調整を行っても、他の場所では製造や物流に実行上の問題が生じる場合もあります。従来、戦術的な材料計画の調整はすべての情報を十分考慮せずに行なわれてきました。最新のクラウドプラットフォームではより接続性の高いソースデータや、ビッグデータセットで「もしも」のシナリオの微調整を行う機械学習などの技術を活用し、より頻繁な全体計画やマイクロ計画を実行する際の障害を軽減します。

3 実行レベルの混乱を 監視し評価する

最先端のサプライチェーンを実行する担当者は、混乱をより効果的に予測、または少なくとも管理すべく、高度なアナリティクスやIoT技術などの実行レベルのモニタリングシステムの採用を継続しています。実行パフォーマンスに基づく混乱と計画の誤りを区別することは、発生する事象を管理し、将来に向けた継続的な改善を採用するうえで鍵となるものです。データソースにアクセスして実用的な情報に集約するには、洗練された連携および調整を行う財務とサプライチェーンのシステムが必要です。



開始までの 手順



1. プランニングシステムとプロセスの調整

Oracleの実装パートナーとの協力により、Oracle Cloudが提供する統合プランニング機能と緊密に連携した、数十年にわたるプロセス設計の専門知識を迅速に活用することができます。経営陣が承認した財務、業務、および両組織間の目標の指示を行い、ビジネスの緊急性に応じたタイムラインで実行します。Oracleのプロセス管理は明確に定義した業績評価目標および明確な方針と組み合わせ、組織がプロセス再設計に適応。また、エンタープライズ・パフォーマンス管理やサプライチェーンプランニング製品において、利用可能な計画立案機能を活用する際に役立ちます。

2. ビジネスの重要エリアにおける 実行レベルのモニタリングの試み

Oracleのサプライチェーン実行製品は、あらゆる業界のエンドツーエンド・サプライチェーン管理の要件を満足します。調達、物流、製造、注文管理の製品は、論理的にOracleのプランニング製品との相互運用が可能です。お客様はそれぞれ異なる戦略や実行の重点を持っています。注文を完璧に満足できることを最優先とする顧客もいれば、卓越した製造を行うことを主な差別化要因とする顧客もいるでしょう。こうした知識を基盤に、プランニングの継続的改善や実行上の混乱の早期認識を目的とした計画の実行監視機能を試して、ご自身のビジネスにとって最も重要な分野を焦点とするプロジェクトを開始してみたいはいかがでしょうか。

3. 問題解決能力を持つ人材が集まる企業文化を育み、 適切なツールが使用できるように育成する

Oracle Cloudの機能は四半期ごとの提供で、より早いサイクルとより迅速なイノベーションの約束を元に、主なプランニング・ステークホルダーを編成しています。スマート製造などのアプリケーション向けのIoTや、インテリジェント・トラック&トレース向けのブロックチェーンなどの新テクノロジーは、わずか数年前には手の届かなかった問題解決の扉を開くものです。高度なアナリティクス、コラボレーション、可視化のツールは、自動化による生産性向上や、潜在的な問題への適応を支援するうえでの手引きや予測となる情報を取得するための、重要な要素となります。

クイック・リマインダー

すべきこと:

- ✓ S&OPのためのベストプラクティスを採用する
- ✓ プランニングと実行のシステムを調整する
- ✓ 主要なパートナーとサプライヤーに参画してもらう
- ✓ 素早くリターンを得られそうな事業分野に初期プロジェクトを集中する
- ✓ 新興テクノロジーの応用を試みる

やってはいけないこと:

- ✗ あきらめること!統合ビジネスプランニングは難しいものの、大幅な見返りが得られ可能性がある
- ✗ 複数のベンダーから複数のシステムを導入すること。統合の問題で進捗(および予算)の傷害となる可能性がある
- ✗ 顧客のことを忘れること。デザインは顧客を念頭に置いて行う



今後に向けて

ビジネスの変化や混乱の処理は、財務およびサプライチェーン・プランニングのリーダーにとって、引き続き最優先の課題となっています。プランナーはより優れたコラボレーションや想定外の事態への対応に向けたツールや方法を求めています。

Oracleの統合ビジネスプランニングと実行は、計画に関する意見の一致に達するまでの時間と、ビジネス上の想定外の課題に対応する時間の両方の短縮を支援します。

販売、財務、業務間の計画をつなげて改善する方法の詳細については、[当社のサイト](#)をご覧ください。

サイトにアクセスする

Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates. 本書は、情報提供のみを目的としたものであり、内容は予告なく変更される場合があります。本書は、誤りのないことを保証するものではなく、また商品性や特定の目的への適合性に関する暗黙の保証や条件を含め、口頭での表現または法律による暗示の有無に関わらず、その他の保証や条件の対象となるものではありません。当社は本文書については特にいかなる責任も負わず、本文書からは、いかなる直接的または間接的な契約上の義務も生じないものとします。本書は当社の書面による事前の許可なしには、電子的であれ機械的であれ、いかなる形式や手段、またいずれの目的のためであっても、複製または送信することはできません。OracleおよびJavaは、Oracleとその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。